

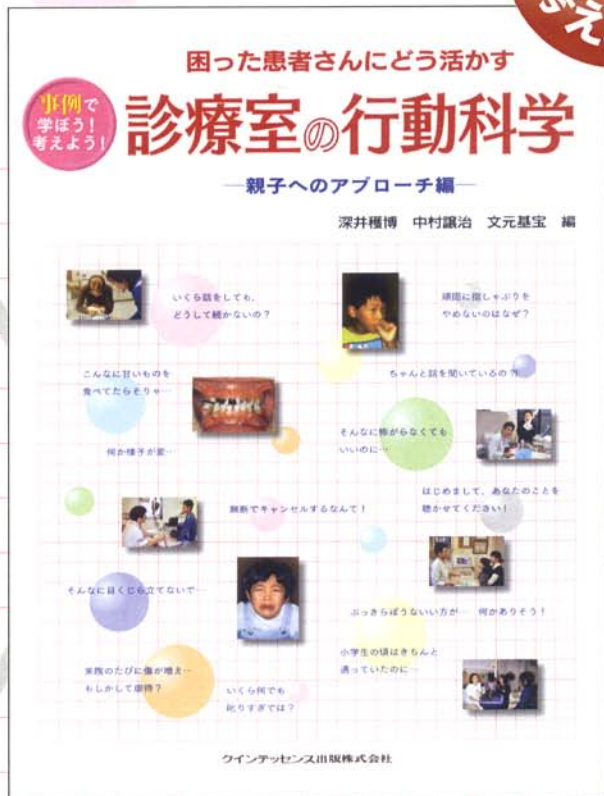
# 困った患者さんにどう活かす 診療室の行動科学

— 親子へのアプローチ編 —

深井穫博 中村譲治 文元基宝 編



患者さんの思いを聴き、適切な説明と同意が求められる今日、場当たりの対応では、支持は得られない。  
“永いおつきあい”を育む患者-医療者関係の構築に欠かせない、すべての歯科関係者必読の一冊!



## CONTENTS

各事例は、幼児期から思春期までの発達段階・発達課題および保護者の養育態度・関心度という観点から7つの章に分類。各章のテーマに有効な行動理論・モデルの紹介を通じて解説している。

<b>第1章</b> 動機づけ理論	<b>生活習慣を育むモチベーションどう高める?</b> 事例1:保健指導を「聞いているように聞いている」親子の行動がなぜ改善したか 事例2:発達段階に応じた歯みがき習慣定着のための母子一体のアプローチ -メディアを利用して 事例3:母親を通して祖父母へのアプローチを取り入れた間食指導
<b>第2章</b> MIDORIモデル	<b>家族の生活背景・生活習慣にどう迫る?</b> 事例1:初診時の面接で聴くこと “はじめまして、あなたのことを聴かせてください” 事例2:リスクをどう診断するか -生活モデルからのアプローチ 事例3:解決すべき課題を決め、どう共有するか -患児・保護者との共有のプロセス
<b>第3章</b> 認知行動理論	<b>歯科不安・歯科恐怖症児への対応は?</b> 事例1:“母親が恐怖心をあおっていた!” 不安の強い子どもへの母子一体のアプローチ 事例2:“頑固に指しゃぶりをやめないのはなぜ?” 家庭環境に起因する不安を抱えた子どもへの対応 事例3:歯列不正を気にする情緒不安定児への対応 -精神医学的アプローチと行動療法を利用して

<b>第4章</b> ヘルス・ビリーフ・モデル	<b>心配性の親とどうかかわる?</b> 事例1:“ぶっさらぼうない方が…何かありそう!” 歯科不信で治療方針への理解が得られない親への対応 事例2:子どものう蝕が心配で!不安で!仕方がない親へのアプローチ 事例3:“落ち込まないで母さん” 親の期待した成果が得られなかったときの対応
<b>第5章</b> 社会的認知理論	<b>無関心・無反応な親とどうかかわる?</b> 事例1:“頭ごなしに叱るばかり” 子どもにすべてお任せで、口腔内状態が悪化していく場合の対応 事例2:治療への関心度が低い親へのアプローチ -中断から学ぶ再来院時の対応 事例3:“母親は否定するけれど、来院のたびに傷が増え…” 虐待が疑われる親へのアプローチ
<b>第6章</b> 段階的変化モデル	<b>セルフケアが定着しない子への対応は?</b> 事例1:子ども(小学校・低学年)の歯みがきをどう習慣づけるか -保護者へのアプローチ 事例2:子ども(小学校・高学年)の歯みがきをどう習慣づけるか -モデリングとセルフ・モニタリングによるアプローチ 事例3:フッ化物洗口の「関心がない」親と「続かない」子どもへのアプローチ
<b>第7章</b> 自己決定理論	<b>来院が途絶えがちな思春期の子の対応は?</b> 事例1:中学生になったら「定期健診なんか行きたくない」といい出した。 さあどうする? 事例2:いきなり口をきかなくなった反抗期まったなかの中学生。 さあどうする? 事例3:“来院が途絶えた後、急にう蝕が増えて再来院!” 塾や部活で多忙な思春期の子どもへのアプローチ

●サイズ:A4判変型 ●128ページ ●定価:6,825円(本体6,500円・税5%)



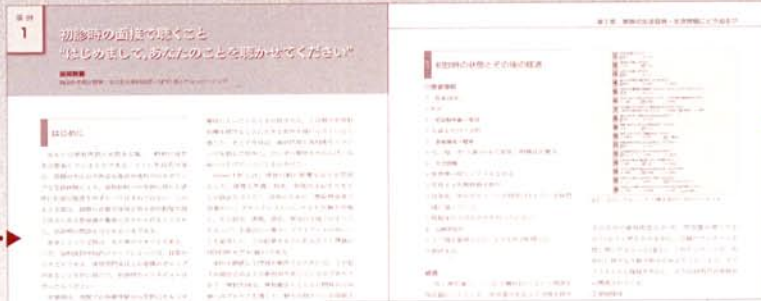
クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル  
TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 http://www.quint-j.co.jp/ e-mail mb@quint-j.co.jp

# 患者さんのモチベーションUPに役立つ!

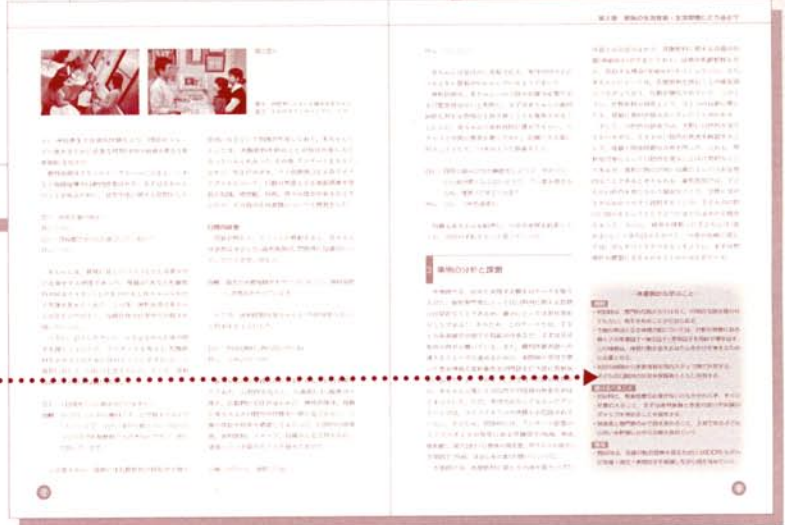
治療の成果に直結する保健指導は、今やすべての歯科関係者に求められる必須事項のひとつ。本書は、ときに歯科臨床で経験される“難しい”“苦手な”小児とその保護者への保健指導の場面（個別の事例）を入り口に、実際の患者の対応に役立つ行動科学について、個別性から一般性・普遍性を学ぶ構成とすることで、わかりやすく理解・習得・実践できる入門書となっている。

各事例は、①初診時の状態とその後の経過、②具体的場面、③事例の分析と課題で構成。時間の経過とともに小児・保護者のセルフや医療者との関係性がどう変化したか、そのプロセスに着目しながら、「そのとき、自分ならどうするか」考えることで、実際の保健指導に活かせるヒントが見出せる。



読者が自院で作成する際の参考になるように、各筆者が独自に作成し、活用しているリーフレットや問診票なども掲載。

最後の「本事例から学ぶこと」では、個別の事例から見出される一般性・普遍性を「原則」「避けるべきこと」「技法」にわけて紹介。保健指導の具体的なポイントが箇条書きで示され、まとめて読めば、実践的な要約となる。



近日刊行予定

## 困った患者さんにどう活かす 診療室の行動科学 -成人へのアプローチ編-

- 第1章 歯の喪失や治療に不安が強い患者の対応は?
- 第2章 思い込みや医療不信が強い患者の対応は?
- 第3章 無断キャンセルや治療中断への対応は?
- 第4章 定期健診へのモチベーションどう高める?
- 第5章 セルフケアが定着しない患者の対応は?
- 第6章 喫煙患者への禁煙指導どう進める?
- 第7章 身体的・精神的ストレスが強い患者の対応は?

※本日は、今後変更される場合があります。

きりとり線

注文書

## 困った患者さんにどう活かす 診療室の行動科学 -親子へのアプローチ編-

冊注文します。

●お名前	●ご指定納入店
●ご住所 (〒 )	
●TEL	●FAX

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。